

2016. 3. 22

歴史民俗資料館だより No.113

長崎市歴史民俗資料館

〒852-8117 長崎市平野町7番8号

TEL (095) 847-9245 (FAX 兼用)

<http://www.city.nagasaki.lg.jp/kanko/820000/828000/p009251.html>

新収蔵品と端午の節句展

会期 4月1日(金)～6月12日(日)

展示品 日本刀(肥前国出羽守行廣作)・袖がらみ・
木製積木玩具・針箱・荒木千洲筆竹虎図・
亀山焼鯉図小皿・初節句飾り幟・加藤清正、
豊臣秀吉、雑兵の節句人形など 約 50点

平成27年度も、市民の皆様方から貴重な資料の御寄贈をいただきまして、誠にありがとうございました。

各資料とも、どれもが生活と文化、歴史を物語る品々です。特に今回は、当館初となる日本刀の御寄贈がありました。

そこで当館では、御寄贈いただきました新収蔵資料と端午の節句の資料を展示します。本紙では、その主な展示資料を御紹介いたします。

展示に際しまして、貴重な資料の御寄贈をいただきました、岩寄 勇様、川副忠子様、楠本礼子様、本田 邦子様を始め関係各位に深く御礼申し上げます。



日本刀 (肥前国出羽守行廣作)

銘 — ひぜんのくにでわのかみゆきひろ 肥前国出羽守行廣 約 350 年前の製作
刃渡り 73.3 cm 目釘穴 1 個 返り 1cm じざいごころえつき 時代 拵付



針箱 昭和時代

木材の表面を樹皮で被ったセンスの良いものです。



木製積木玩具 昭和時代

昭和33(1958)年に竣工した高さ 333mの東京タワーは、戦後日本の経済復興のシンボルでもあり、子供の玩具としても製作されました。



袖がらみ 江戸時代後期

長さ285cm、直径3cmの長い堅い棒の先端に袖がらみ(左写真参照)が付いています。さす又などと併用して、乱暴者を取り押さえるのに使用しました。



端午

端は初めの意で、午は五と同音で同じ。もともとは月の初めうまの午の日のことをいいました。中国では月と日の数が重なる日を祝日にする風習があり、五月五日を端午として祝うようになりました。

日本には平安時代に伝わったといわれています。江戸時代以降は、男子のいる家では立身出世を意味する鯉のぼりを立て、武者人形や強さを現した虎などを飾って、子供の成長を祝う行事となりました。

荒木千洲筆竹虎図 江戸時代後期

亀山焼

伊良林の若宮神社近くに、文化 11(1814)年頃、大神甚五平らによって白磁染付が焼き始められました。ここでは多種、多様な器が吉祥文で染付されました。中でも鯉は中国語の発音から「利」益となり、鯉が龍門りを昇りきると龍に変化するという「出身出世」のおめでたい魚で、好んで描かれています。



亀山焼鯉図小皿 江戸時代後期



大竹の鯉のぼり(広島市) 昭和時代



全国各地の虎の玩具 昭和時代



長崎市小川町西家旧蔵



端午の節句人形 (加藤清正・豊臣秀吉・雑兵)



明治 34 (1901)年